

平成13年3月から4月にかけて、「鳥取県西部地震に関する被害と行動調査」を実施した。

以下は、その単純集計及び自由回答欄の意見を集約したもの。

① 調査の実施機関

米子市
北海道大学大学院工学研究課都市防災学研究室
金沢医科大学救急医学講座

② 調査方法

世帯単位の記名調査

③ 調査内容

震度調査(簡易版)
建物被害調査
室内散乱状況調査
人的被害調査
米子市の対応に関する調査

④ 調査対象世帯

市内の住家全壊世帯(99世帯)及び負傷者発生世帯(11人)

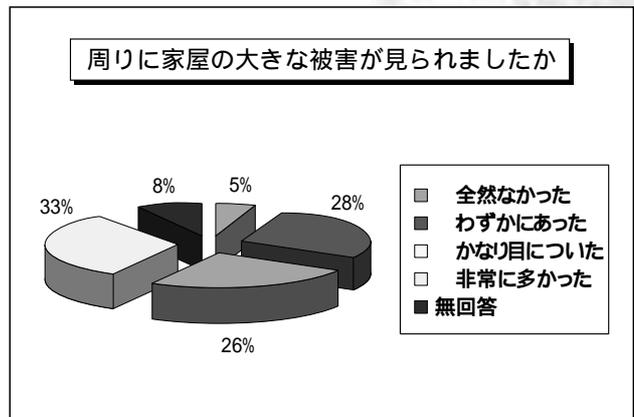
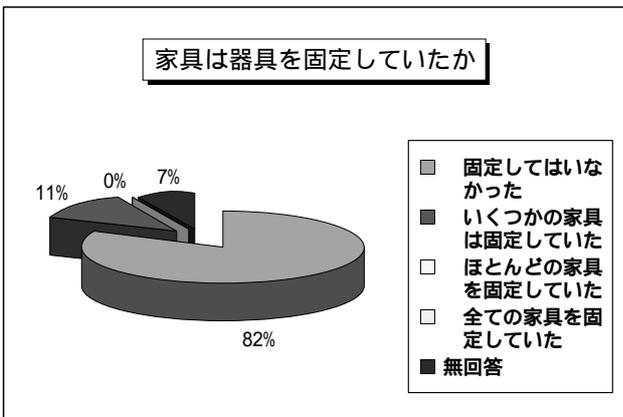
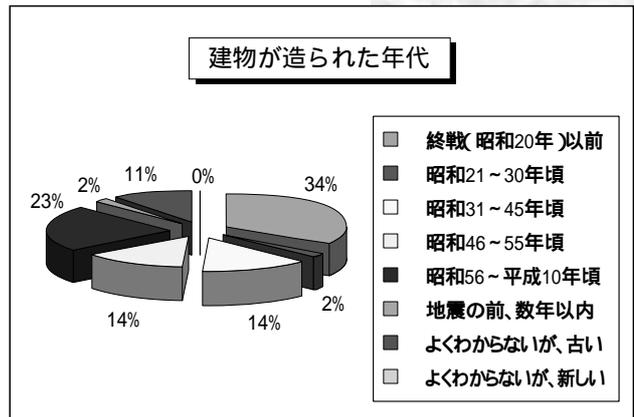
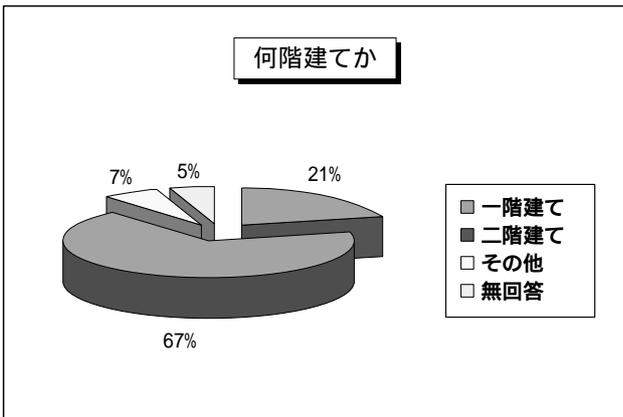
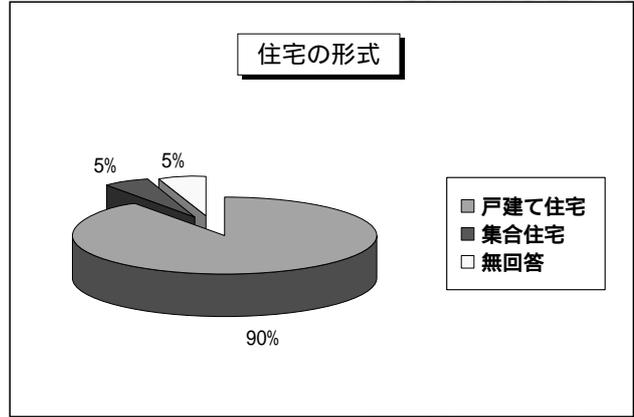
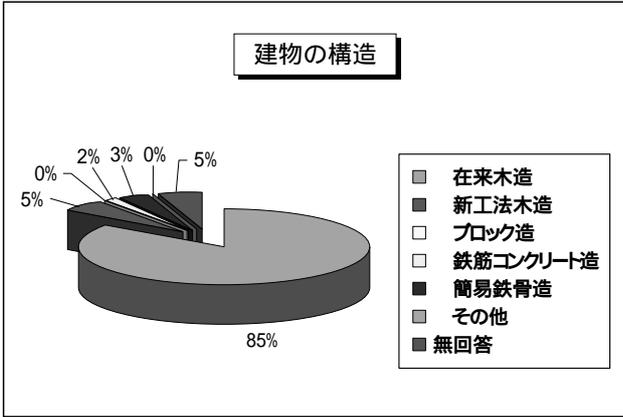
⑤ 送付数

130部(内実送付数110部)

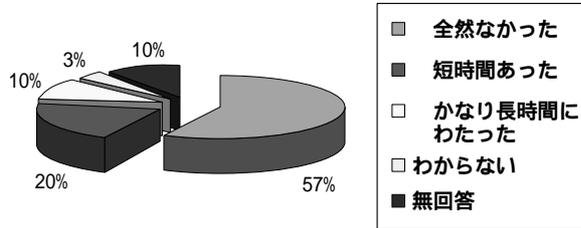
⑥ 回収期間及び結果

回収期間:平成13年3月24日~平成13年5月27日
回収結果:回収数61部(回収率55%)

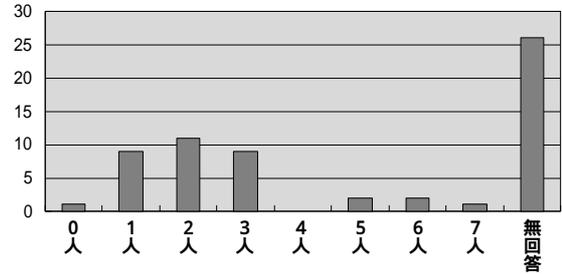
7 調査結果報告



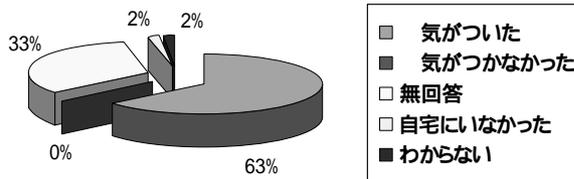
地震が原因の停電・給水停止などありましたか



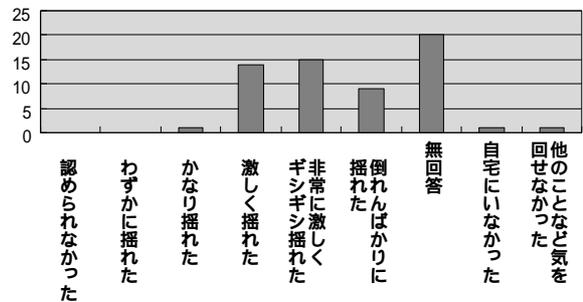
地震時に同居されていたご家族の人数



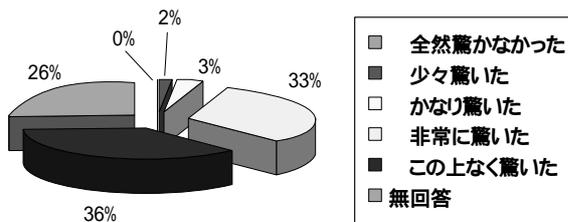
あなたは地震に気がつきましたか



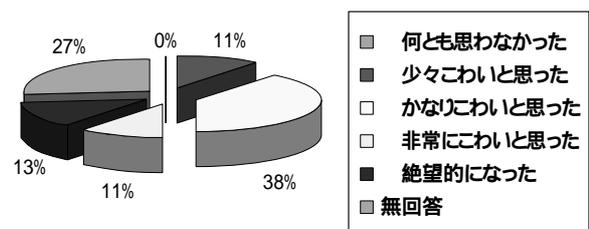
家全体としての揺れはどうでしたか



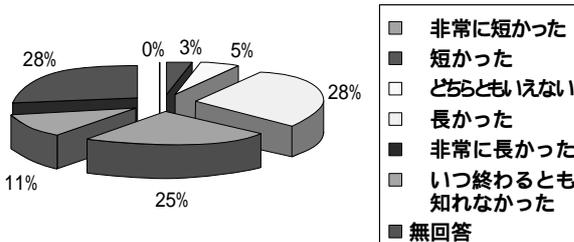
地震に気がついたとき驚きましたか



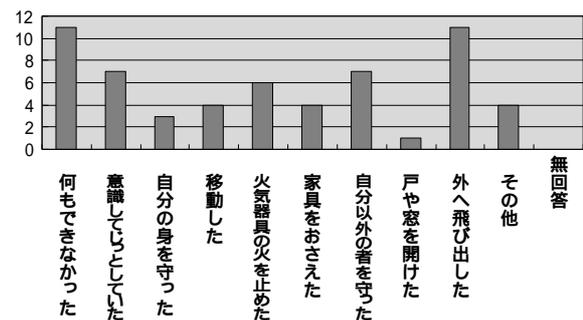
どの程度怖いと思いましたか



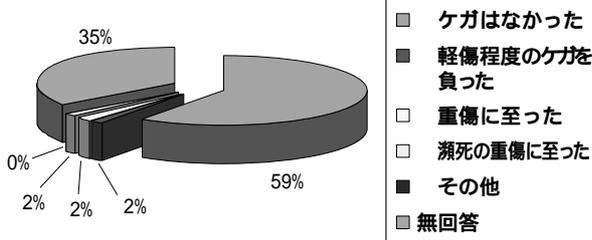
地震で揺れている時間をどう思いましたか



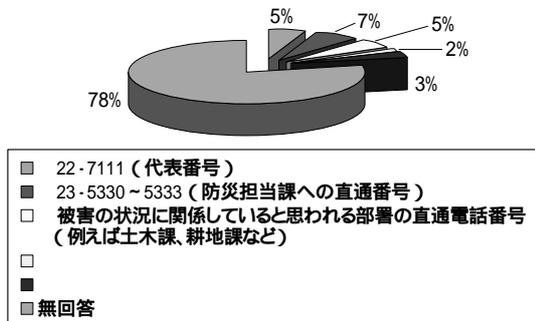
揺れている最中に何をしましたか



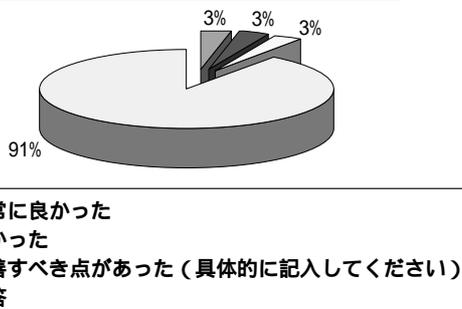
地震のゆれが終了した直後けがをされていましたか



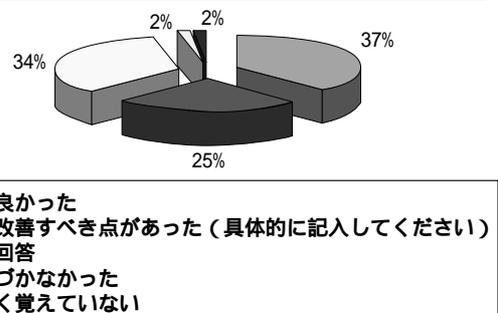
震災当初市役所に電話した番号は



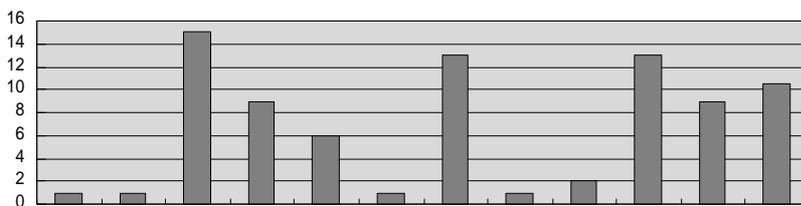
避難所の施設対応はどうでしたか



地震の際、防災無線についてどう思われましたか



地震後に行った対策は



自由回答欄

今回の震災対策に関して、市役所に要望することを具体的にご記入ください。

- ・ガスもれ等が発生した時に2次災害を防ぐために、電話しても話し中で電話が通じない。こういうことにならないように直通になる電話番号を知りたい。米子市が作成して緊急の連絡先を自治会に配布してほしい。
- ・補助金の申請に対して高齢者の場合、手続きが出来にくいため市の出張、自宅サービスの充実と手続きの簡素化を要望します。市道(富益団地)の整備の早期着工。
- ・被災した立場は同じなのに収入によって制度が受けられないのは納得いかない。
手続きが二重三重の手間(精神的に参って居るのにです)
メンタル面でのフォローも何一つなく(安倍・彦名や大沢川周辺ばかり優先されて)1ヶ月も我慢したが、いざ引越しを決意しても県営・民営には入居させてもらえなかった。
相談室の対応が被災者の気持ちを全然理解していない。
- ・市役所の皆様には親切にいろいろと教えていただき、心より感謝しております。何も要望することはありません。
- ・市の対応が非常によかったです。
- ・特にありません。
- ・度々相談に伺いましたが、いつも親切に対応していただき感謝しています。ありがとうございます。
- ・よかったこと
子供が小学校にいる時間でしたのでとても心配していましたが、防災無線で全員無事に校庭に避難していることがわかり、安心して学校に迎えに行くことができました。震災後公的援助の基準について知らせていただき、かつ手続きもしていただきとてもありがたかったです。
- ・要望することはありません。市役所の方の震災対策本部の方々はみんな親切で、丁寧で本当に助かりました。ありがとうございました。感謝しています。
- ・よい対処をしていただいたと思っております。心身ともに疲れているときボランティアさんにお世話になり、倒壊したブロック塀を片づけてもらい、非常に助かりうれしく思いました。
- ・高齢の方々にわかりやすいような手続き等の簡素化を望む。マスコミ・メディアからの情報の方が早く混乱した。

- ・今年の9月までに市住を出なくてはいけないので不安です。家具もそろえなくてはなりません。早く家が決まったらと思います。
- ・日常生活に困る事態にならず切実感はないが断水・停電・ガス切れになると大変だ。
普段の防災訓練が必要だ。
余震などで母屋が半壊となり解体 市の援助が助かりました。建築資金の優遇などの非常事態の対処。
- ・地震の後、家が全壊となりいろいろな手続きで市役所に行ったが、あの階に行ってください、1階に行ってくださいとなかなか統一できてなかった。あとで4階にまとまったが、県は県民室の窓口があり各担当の人が降りて説明にこられた。市は場所がわからず何度も行ったりきたりでした。対策として一本化され、課税課、建築課とわかるなどの横のつながりをとった対策をしてほしい(書類をあっちこっち出すのでなく)。
- ・家が全壊でしたがお金がないため補強したくらいで墓も25体と灯籠6体が倒れ、なしも全部落ちました。補償を農協の共済で少々補うことができましたが、市のほうももっと考えてほしいです。
- ・後の補助的な部分がよかった。
一人暮らしで、高齢でないため、何の手助けもなく、瓦の整理、崩れた壁等の片づけが大変だった。屋根のテントはり等もできなかった。
- ・災害について日常心がけておくことを機会のあるごとに例えば各種会議や掲示板等において市民の常識として知らせる。災害時における避難所を知らせておく。
- ・防災対策本部は、早急に立ち上がってほしかった。
相談に行っても今年度がはじめてでわからないのは十分わかっているが、各部所に相談事項をたらいまわしにしてほしくなかった。
- ・震災により全壊認定を受け、新築を考え手続きを行っていたが、地主より地代をあげるといわれ断念せざるを得なかった。できることならば、震災対策法の中に故意的に家を壊した場合でないで、契約どおり同じ地代で建て直し、再建活動の後押しを市から行ってほしかった。市及び県の援助を受ける手続きを早く処理したにもかかわらず、土壇場で無意味になりその半年間、精神的不安を抱えながら生活を余儀なくされた。今後このようなケースはありえると思うので検討していただきたい!!
- ・わたしの家は借家なので屋根、壁面など全壊認定なれど何もしてもらえないことに不満である。
- ・初めての経験で市役所の方も大変だったことと思いますが、対応はかなり早いものだったと思います。電話の回線がつながらずいろいろ心配します。また何かの災害に遭ったときは少しでも多くの情報を流していただきたいと思います。

- ・ 特になし
しいていえば、税金の免除手続き処理をもっと早くしてほしい。課にもよるが、申請から銀行振込終了まで3カ月もかかっている。
- ・ 特にありません。
このたびの地震に関してはありがたく感謝あるのみです。
- ・ 地震の状況を人が代わるたびに話をしなければいけないので面倒だったし、それだけでなく、いやだったことを何度も何度も話すことになり精神的につらくなった。
- ・ 家屋の被害を受けた世帯だけでなく、一家の大黒柱である主人が重傷を負い長期入院をしている我が家にも経済的な支援をしてほしいです。
- ・ 家が全壊し小さいところでも建てるにあたり義援金をいただき大変喜びました。
- ・ 市の担当者が廻ってこられ、危険だから退去といわれたが近くに避難所がない。近くの避難所を通知されたい。
- ・ 地震保険の加入をPRすべきだ。
- ・ 役所は本当に被害者のことを考えているのか、ただ仕事として義務的にしか対応をされていないように思いました。全員がそうであるとは思いません。ごく一部の人は親切でありました。支援、援助も市民に対しては十分に行ってほしい。
- ・ 我が家は今回市の方に大変お世話になりました。ありがとうございました。
- ・ 防災無線が家にいるとぜんぜん聞こえない(いつも)。
- ・ 被災者支援制度のことについて
相談窓口の担当者がうそをついたりからかったり、制度の内容について担当者によって言うことが違ったりして非常に腹立たしい思いをし市役所が信用できなくなった。もっとまじめにやれ!!

今回の地震に関することで、自分自身に対する反省点があれば自由に挙げてください。

- ・ 今回のような大地震は鳥取県は来ないと思って安心していたが、この度の地震でいつどこに起こるかわからないと感じた。電話の不通によりパニックになった。いざという時は自分の身は自分で守らないといけないことを痛感した。

- ・ お店での買い物途中で地震に会い、そのまま入院になったため家の事などのアンケートには答えられません。すみません。救急車を呼んだらしいのですが、いくら待っても来ませんでした。結局お店の人に近くの病院へ運んでもらいました。いっせいに地震や事故にあったら急には何もできないなと思いました。義援金をいただき沢山のの人に助けていただいて有難く思っています。
- ・ まさかと思うことが現実になり慌てております。これからいろいろと考えていきたいと思えます。
- ・ 高いところに物を置くのをやめよう。すぐ避難できる場所を確認しておこう。
- ・ 私は地震の最中外に飛び出したために怪我をしました。
あの時家の中の机の下などにじっとしていたら怪我をせずにいたと思えます。
慌てて外に飛び出したことを本当に反省しています。
- ・ 自分は配達中、車のブレーキが利かなくなり非常にびっくりしました。いつでも止まれる安全運転が必要だと思えました。また家族二人いましたが無事でしたのでよかったと思えます。
- ・ 今まであまり地震に関しては他所のここのように思っておりましたので、いざ地震というときの心構えがなく筆筒、家具等の設置等も考慮しなくてはいけないと思った。あまりあわてて外に飛び出し怪我をしないようにすること、非常袋を作っておくこと。
- ・ ボランティア精神の欠如
助け合いの精神を大切にしたいと思えました。
- ・ 想像だにしないことで驚くばかり。普段の備えが必要。
震度の割に被害少なく幸甚でした。備えあれば憂いなし、普段の心構えが肝心。
衣食住の大切さを知る。日本全体が自給率を高める施策。農業の大切さなど(国の施策)。棚の上にあまり物を載せない。家具等地震対策をしておく。
- ・ 少しでも家の補修は早くからしておくべきだと思った。家具等は固定すること。
- ・ 以前ある学者の方が地震について、日本のどの地方に地震の起こる可能性が高いか分析されたことをテレビで見ました。その時鳥取県西部は地震に対しての可能性が大変低いものでしたので安心しておりましたが、このたびの地震で私の家は全壊してしまいましたので大きなショックを受けました。自然はどこで何が起こるかもわからないことを痛感し、今後の教訓になりました。
- ・ 突然の天災に対しては、その最中は人間は何もできないことを痛感しただけ。
阪神大震災以降、非常持ち出しは常備しているが、とっさの場合持ち出すのは不可能である。その時々で対処するしかない。

- ・地震保険をかけていたので心強かった。県の対策も早い段階にできていたので心強かった。今回の地震はライフラインの被害は出なかった(我が家に関して)ので、地震後早い段階で普通の生活に戻れた。
- ・地震の災害などというものは他のところのものと安心して何の対処もしていなかったこと。
- ・対策に無関心であったこと。
- ・食器棚の戸を開かないようにしておけば、食器の破損が防げたと思った。
- ・我が家は建物も古く狭いためいろいろなものを上にのせていました。夜寝ているときだったら大変だったと思います。今なんとなく家が落ち着いていませので、これからいろいろと考えてみたいと思います。提出が遅くなって申し訳ありません。もう二度とあのような地震が起こってほしくありません。一ヶ月間くらいは食事も睡眠も取れないような状態でした。
- ・今回の地震の時自宅には誰一人おりませんでした。6人家族ですが、主人の母と主人は滋賀県の方に葬儀に出かけておりこちらにはおりませんでした。父も出かけており、子供は小学校と幼稚園に行っておりました。私はビデオレンタルと古本屋が一緒になっている本のコーナーで本棚と本棚の間で本を買おうとしていましたが、地震があつて2m近い本棚がドミノ式で次々と倒れてきてその下敷きになってしまいました。自力では出ることができず消防の方々に病院まで運んでいただきました。右腕と左の鎖骨を骨折して胸骨の左のアバラ2本にひび、右の顔を強く打って麻痺してて歯は3本折れました。入院中はあまりの痛さとストレスにより円形脱毛症になってしまいました。自力で起き上がれず食べ物も食べられず点滴で10日後に手術をしました。それから1か月と10日入院しました。未だに右腕のリハビリに通っています。いずれまた右腕と左の鎖骨の金具をとる手術があります。
幸い家と家具等や、家族は怪我もなく無事でした。怪我をしても未だに完治せず、ゆれるとやはりとても怖くしばらく何もできずにいる状況です。
でも食べていかなければなりませんので仕事には出ています。多少の不自由はありますが。